

編集後記

編集長(ダン シロウ)

創刊三年が過ぎて、マガジン執筆者の多方面での活躍が目につくようになってきた。編集長が意図的にそんな場を作ることは出来ないが、選手が良い準備の出来ていることを、社会に知らしめるステージになっているのは間違いないだろう。

私は自分が騒がしく目立つ男であるから、社会的な権力や立場上の権限からは極力遠ざかるようにしてきた。これは単に好みに合わないことはするまいと思っていただけのことだが。

その一方で、良いチームのマネージャーでありたいと思ってきた。前にも連載で書いた気がするが、「クレイジーキャッツ」のハナ肇氏は、リーダーとして魅力的だった。理由はメンバー全員を大切に、それぞれが世の中に届くよう、配慮していたと思うからだ。

植木等、谷啓、犬塚弘、安田伸、桜井センリ、石橋エータロー。それぞれ持ち味の分野での活躍は、彗星のごとく現れ、ボーカルやリーダーだけが残って、他のメンバーは消えてしまうタイプの集団とは違って見えた。

私はそういうチームが欲しいと思っていた。そんなチームが世代交代をしながら新しい分野や、未開拓のフィールドに、対人援助学の英知を積み上げていくことを思い描いてきた。

スポーツ禍害問題の中村周平さんは、柔道事故絡みのシンポジウムに招かれて話した。連載が早々に本になった荒木晃子さんは今、話題の不妊・卵子提供の日本のガイドライン委員の一人になって、賛否の渦中課題を引き受けて動いている。ケアマネの木村晃子さんは地域で家族の勉強会を継続開催したり、連載を受けたりと大忙しらしい。

ベテラン勢では、川崎二三彦さん、早樫一

男さん、中村正さん、そして私もそれぞれ TV、雑誌、出版分野での活躍がうかがえる。他にも様々なことがマガジン執筆者の周辺で起きている。これは雑誌創刊のイメージが固まって、始動した時の思惑通りである。

「対人援助」を心理や福祉の専門性の中に閉じこめることなく、幅広いフィールドで、これまでにはなかったもっと多くのことが事が生み出されるのを願っている。

何年か経てば、おこなった事と、おこなわなかった事の差は必ず生まれる。それを信じられるかどうかで、日常の積み重ねが続けられるかどうかが決まる。そこが世の中を信頼するか否かの分かれ目だろう。

若い世代がこの世界を信じるに足ると思えるようお膳立てするのは、先輩の仕事ではないかと私は思う。

編集員(チバ アキオ)

週6で働くようになって6年目に突入した。研修運営、講師の職場では一人職場である。世の中に一人職場の仕事が増えているなか、その経験を5年前からしている。それまでは40人、50人の利用者の方々と一緒に職場で過ごしてきたので、そのギャップを感じることもある。今号新連載！の浅野貴博氏は私の前任者である。現在、調査研究のため留学先のイギリスから日本に帰国し、京都国際社会福祉センターの宿泊施設で8月まで滞在する。初めて同じ立場を経験した者同士で一人職場での苦労をシェアした。更に6月からは同じ建物内で新しく相談事業がスタートすることになった。ポジション的な一人職場は継続するけれども、空間的な一人職場は終焉することになる。前任者と新規事業とにわかに私のいる空間が豊かになってきた。これは確かに違う。多くの人と共有することのよさをひさしぶりに実感する。これまで自分の心のどこかが疲弊したことを知った。

マガジンでは、遠くはイギリス、そして日本の全国各地に執筆者の方々がいながら、ひとつのことを共有する喜びを感じています。私はこういうのが好みですね。

編集員(オオタニタカシ)

何度見ても、連載陣の幅が広い。最初に見た時、広すぎて途方に暮れるような気持ちになったことを思い出します。全ての領域について、把握することはできないと感じたことが理由です。

今では少し捉え方が変わってきました。別に全てを把握しなくてもよい、同じ地平にこういう世界があって、その現場にいろいろな思いを持つ人たちがいることを知っておくことに意味があると、思うようになってきました。

最近、マガジンとは別に原稿を書く機会がありました。首尾よく進めば、秋頃には形になる段取りですが、原稿を書くにあたって、このマガジンが大きな下支えになりました。1つはこれまで書き進めた自分の連載を再構築する形でまとめられた部分があったこと、もう1つはマガジンを通して触れたいくつもの「ことば」や「視点」です。これまでより少し広い視野から書けたと思っている原稿に手を入れながら、マガジンに息づくものが、少し自分の中にも根を張り始めたように思います。

■ご意見・ご感想■

マガジンに対するご意見ご感想は
danufufu@osk.3web.ne.jp

マガジン編集長

604-0933 京都市中京区山本町438
ランプラス二条御幸町402 仕事場D・A・N

対人援助学マガジン

通巻13号

第四巻 第一号

2013年06月15日発行

<http://humanservices.jp/>

第十四号は2013年9月15日発刊の予

定です。原稿締切8月25日！

新規連載者は常に募っています。

編集長まで執筆企画を打診して下さい。

対人援助学会事務局

〒603-5877 京都市北区等持院北町56-1
立命館大学大学院応用人間科学研究科内

TEL:075-465-8375 FAX:075-465-8364

対人援助学会事務担当

入会・退会・変更届

〒540-0021 大阪市中央区大手通2-4-1
リファレンス内

TEL/FAX 学会専用:06-6910-0103

表紙の言葉

イラストは自著「ヒトクセアル心理臨床家の作り方」（金剛出版）の巻頭部分の心理臨床マンガ・ギャラリーに掲載された作品の一コマだ。

最近すっかり、この手の漫画を描かなくなった。当然描けなくなってもいるだろう。マンガのアイデアを考えるのと、来談者の課題の今後の変化に向けて、何かプランをと考えるのはよく似ている。

そしてピタッと来る感じとか、なんか違うなあという感じも似ている気がする。ずっと漫画を描く自分として生きてきているので、漫画を描かない心理臨床家の課題との向き合い方が、私にはピンと来ていないのかもしれない。

全面背景一色の表紙にしたのが、良いか悪いか、次号の表紙制作時まで評価は持ち越し。 団士郎 2013/5/30